

企画提案事業の透明性

情報公開クリアリングハウス理事 奥津 茂樹



地

地域の課題は多様であり、これらは行政だけで解決できるはずがない。こうした現状認識は今や常識であり、住民、学校、企業など多様な主体の連携による取り組みが模索されている。実際に、多様な主体と行政が対等な関係で課題解決に取り組む事業が数多くある。事業の規模は課題や案件により多岐にわたる。いずれも企画提案（プロポーザル）を通じて、事業の体制、実績・能力、企画内容、経費の適正性等が問われる。そして、これらを行政ではなく第三者が審査することも多い。

経験からの学び

私にとって22年は企画提案の当たり年だった。協働事業1件、補助金2件、そして、このほど経済産業省「がんばろう商店街事業」の企画提案も採択された。まるでコンサルタントやプランナーのように、多忙な日々を過ごした。

地域の課題解決のために獲得した資金は4件で300万円超となった。いずれも地域の課題解決のために活用する資金である。私自身は一銭も得ていないが、ボランティアで関わることは納得の上だ。タダ働きではあるが、住民やグループが躍動するさまを目の当たりにできることは幸せだ。

そして、これらの事業に関わることで、自身の専門である情報公開や情報提供に関わる学びを得た。その一端を紹介したい。

協働事業1件は川崎市「宮前区市民提案型総合情報発信事業」である。企画提案の募集要項には「区における地域の文化、自然等の資源（地域資源）の価値を改めて見出すとともに、地域資源を活用して当該地域の魅力を高め、区民が愛着を持つ地域資源を継承していくこと」が目的として明示されていた。

同区は22年に区制40周年を迎えた。このことも念頭に置きながら、私が注目したのが区の花コスモスである。区の木さくらの認知度は高い一方で、コスモスの認知度は低い。区制40周年を機に認知度を高めるため、「宮

前こすもすプロジェクト」を企画提案した。

提案の主体はまちの緑化活動を長く続けてきた「宮前ガーデニング倶楽部」、そして私が運営する地域交流拠点「さくら坂スタジオ」である。正確に言えば、両者が協定を結び、「宮前こすもすプロジェクト」コンソーシアムを設立した。そこが主体となって企画提案を行い、実施・運営した。

なお、同区の協働事業や私たちが企画提案・実施した事業の概要は、区役所のホームページに掲載されている。事業名「宮前区市民提案型総合情報発信事業」で検索していただきたい。

選考の透明性と公正性

企画提案は事務局が第一次審査をして、公開プレゼンテーションを踏まえて、審査会が第二次審査をする流れである。これにより私たちの企画提案は三つの事業の一つとして選考された。

以上のように選考の透明性や公平性は概ね確保されている。しかし、企画提案事業の当事者として気になったことがある。それは各団体によ



る提案内容の情報公開だ。

私たちは選定されたため、関連する情報の公開を求める動機は弱い。しかし、選に漏れた団体の中には、特に選考団体の企画内容を知りたいと考えるところもあるだろう。

もちろん公開プレゼンテーションは傍聴できるため、企画提案の概要を知り得る。ただ、それ以上の企画提案の細部にわたる情報が提案団体に提供され、共有化されたわけではない。

過去にも企画提案の選考過程をめぐって、条例に基づき公開請求された例が他の自治体にはある。請求者の動機は不明だが、選考の結果はもちろん、過程の透明性や公正性に疑問をもったことが請求の背後にあると思われる。

そして、場合によっては、こうした企画提案の内容が非公開になる例もある。以下に紹介する大阪府茨木市の答申例は、私が経験した事業とは異なるが、プロポーザルに関わる情報公開の是非が争われた。

ここで対象になった情報は、同市の「ユースプラザ事業業務委託に係るプロポーザル実施に関する文書」だった。個人情報や法人情報であることを理由に、同市は部分公開の決

定を行った。

選考の透明性と公正性

これに対する不服申し立てについて、同市審査会は原決定を妥当とした（茨木市情報公開審査会答申19年2月28日、第39号）。この中で注目されるのは、答申の本文ではなく、最後に「その他」と記された付言の部分である。

答申は、今後の「プロポーザル審査」に関する情報の公開について、「昨今求められる更なる『行政の透明性の向上』のため、今後、『プロポーザル審査』を実施するに当たり、以下の事項について検討されたい」と切り出し、以下の2点についての意見を付記している。

1点目は「公表の事前同意」である。これについて答申は「公表について同意のある情報」と「公算段階での公表への同意」に整理して、その必要性を指摘した。

また、2点目は「参加事業者が自ら公表する情報等の公開」についての意見だ。事業者にとっても情報公開は当たり前の時代である。企画提案の内容には自主的に公表している情報もあり、それを考慮すべきとの

指摘だ。

この2点について、私は「前さばき」と表現している。企画提案（プロポーザル）が拡大した時代であるにもかかわらず、こうした前さばきが不足している、いや欠如している例が少なくない。それは、情報公開請求の可能性を想定した備えができていないことを意味している。

そのツケは巡り巡って、企画提案に関する公開請求があり、その一部を非公開したような場合に行政のコストとして立ち現れる。「前さばき」を川の上流と表現するならば、ここで十分に整理・処理をすれば、下流で流れが淀むことはない。

補助事業の経験

最後に私の経験に立ち返ることにしたい。企画提案事業の課題の一つが、選考過程や関係文書の公開だと認識していた。そこで私たちの企画提案について、ネットを通じて自主的な情報提供をした。

noteという自身のブログに企画提案に関わる記事を、公開プレゼン前に掲載した。企画の趣旨、提案主体を明示し、関連団体を含めてリンクを貼って紹介した。二次元パ

コードを参照していただきたい。

また、企画提案の概要、事前質問に対する回答、企画提案の補足説明資料など、事業に関連して区に提出した文書をPDFファイルで掲載している。たとえ川崎市に請求があっても直ちに公開できる。

さらに公開プレゼンテーションを傍聴できない人も多いので、デモ動画を作成してYouTubeにアップした。ただ、あくまでも事前の動画なので、本番とのズレはある。

実は、これは、自身の企画提案の透明性と公正性を証明するためだけのものではない。未来の企画提案事業のあり方を表現することを意図した。茨木市答申が指摘する、更なる「行政の透明性の向上」のために何が必要だろうかと自問した。それに對する答えが、この記事である。

企画提案事業にチャレンジしたい団体や企業は多い。しかし、提出文書の構成、内容、表現など慣れない仕事が多く、せつかくのアイデアがお蔵入りする例も少なくない。そんな人々たちへのサンプルとしても活かしてほしい。

思いが通じたのか記事へのアクセスが多い。ネタバレが各地のタネになることを期待したい。